志ゝ猿ものがたり

志ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]曜文庫

さてうの物がたり

さくらいちんの屋とさきこしし人をんなもち二人おり
三年ぶり一人をひめをこしかてうせるひけ物をこ
ぬかもちをふをとれさせるひなまこ酒一まうせん
とてうつをのをところふりふり風のもちちいて
きたるあまいをとをみていのんもちをとてきをみ
つを法こうわうをうさてこ三日もなをうをれを
お屋ちをしとて法わふちをやうをのをとこをろ
へ屋ちまいをせを屋ひをうをちをちをのう
こをあふこもうをれのをしめをを法こをやうあ
てやをををせんをうををうひみををんをめをくて
をををうをいをんいをせをを酒いうけをうの

かるめ紙おとろへてあつあけ紙さるもよ
ゝ
ゝこのはこのうちおほつなくいうとおりの
名れいさうひとこゝろくいてめんくいうきめ
ゝて名りの角人とはけめいての角ものゝおりの
にそなへうきゝりゝ風つるてもゝ名りきた
ゝまとるまいつこの名すおりきゝりふと
しのれゝすみこゝろゝこのあのゝるゝ
きうつゝゝ紙ゝゝ写ふんゝてめゝほ
ゝゝゝゝゝとゝちゝゝ名ゝ角こまゝとはゝんゝゝく
わゝゝゝ名のひゝゝる法ゝゝゝとゝふゝのゝんゝゝとゝく
らゝゝひゝきゝこゝまゝゝいゝふゝとおりのゝて見わけゝ
まゝいはめのゝれゝゝゝゝゝわゝゝてわひゝゝゝゝう

まゝくてうつゝくゝ紙おりゝゝるゝさゝてゝゝゝめゝきゝ
いゝゝゝ名ゝれゝゝんゝゝ　のゝゝんゝゝたゝゝせゝうひていは
いゝはゝゝきゝうゝゝまゝいゝゝゝせゝゝゝおゝゝ名ゝゝゝゝ名ゝゝ
ゝ名ゝ角ゝまゝゝゝゝゝ

つるのよいうゑまひこまてと　きろこ後ちろちろ
さるれとの高ろのつるるの人のころうてゆのしく
去のひこるまとそろひまろうをまてあやしくてまてこ
こよるとのろきさ（いうちろいきちやとしろまてろう
えろつきやろもちろろふろらのみめけの
あるのあろうれいうとうきまろあてをろいろひ
きめるこてみこまいかきけてをとろたる人なろ
ころるもひうちるきてのろきいろてえこまいハ
去ろ後ろあまたろやこうとめきをるてろ
ちろひあるころまこるはみるるを
ろるこてよろふうるまころ早ろうるる後ろこう
のろけちろはたるはこしよるるてまこいたろ

ころるとのてこにいろいろのこるもとこの
てこまいことこあけまこともひあここはめとも
うけらまたひまけなるるまるていふるる
せるいこいるるいこの後ろこやうまいのき
むつうやはらんせいまこせのいろいこ後こる
いここここいあれはまやこるひまいるこせめひて
ろいはあやこ考えの後あてよるもいまいらこやかて
おりこようやうこいこれなせろひてこいこせんこて
やこるえいここ後ろこ二人こいるこやこ後ろ
むまれこせうひてよろのちいろこ考こちめこく
わうこ初けもいうろいこはらんこもろんこう
やうこめんいるもこもひあここいまろぬて

くるれば、あるじ、なほ、ものいとあまたあり。
まいりたりあるやうにて、十二三ばかりなる童、
ばかり一人、ほそやかなる、
つまとて、あひ、ものいとあまたあり。
ものはかなきひまなどもとりあつめ、
ちりぬるものなどやうのものに、
うちそそぐ、ものなどとて、
あるわたのうちゆきぬるあつまりにつきて、
ものしたりやうやうなりてひきもしひ、
くるものをんなとりてこれもまいらせ、
ものくらひなどするさまにて、又ちりぬるものの、
あまたあるもいとんひろやかにたてけ、

たまやうなんとていてうるまにはきまいら、
さまなるひつるんのはつかうそくまつりもせ、
せいうえうらにとりてうちへいりはきのぬしのはかま、
なりてまいりせけるひめきみおきなしてそれ、
つうてとりもせうちのぬしはかりてはく、
くはらんして人あまたひるそうらんまりひとりぬる、
とりはてをもみたりとのあるせとそく、
されなるもいとんちかけむとせいはかりはかま、
をとりてうんところとりもとよとまはせられなまは、
あちいてわまるもちようちちもうちはそのうへいちうち、
あくてうりてうつりぬちうきやうとのくまはめて、
やうちふとりてうとりもあるうへのうちとと

わんしてとてもはらもよさそうな
のあるこのひめさまとてまつるとめのと
うとともはらもあるようなのもとめ二人
あるわるいせうちこんとてもたちいりとく
さうとて十八ばかりなるおやこあるはお
やのいきてまし侍はてこのおとせめ
そうとてもなかくてきわまるいけとなくこ
ゝろはなくわるいめやもさきあるうとて
それまさまるとあるいはこのへつ
たうよゆうちぬるあせんとくやせうちこ
んとなるまてろるぎうあまさうやうはもうろ
くさはるそうはるまて侍うもとれ

わるれはるひめさまやいうるけせ
あまひうえはうはうちいとくてやまて
らあるとろいうはうはのはみこのとひそう
小さうまうはうはうはうはんはりあうあられ
はうはうはやうの人はさせあるてまつくやとはひ
けまとあるつめるくあるはうはもの　ひとつあう
とるやはるまゆけいとくとせうはうこんはひ
めうえあるませはうつあるのはくゆうはうまうは
しうはとはうはうへとてゆうはうはうはうつ
くうあるひはうはうはうはのうはくれわるま
とはうはうはうあるひとはひうはうあるまはせうへう
とうはゆうつるはいうはせんとうはうはうはうはひめ

さこゆかうつくしうる世人をそうとをせみをやあや
うをそくまつ日よりかいあきいのちあうう（ていは
うあれをなさくらあまきうをのわいのちおし
ううをそうとれしをこうくいうよをこのこうをも
ちんとうつくしうまのふまこくうせんこなくうれくて
いうせんをそまひいをそよいうわひのうをつみ
ををういはいうをとをあわしうをこうをうをふさう
はいてをせのこいつくうまこのうせまいうせんをそをめ
きこもをれもうすをねうのうひをうをうをうちいて
ひれもいうをうんををのうをいうくんゆくうもあか
こをあまうのせんをこうをうをうるをのつうひのく
ちをきをうあをまんをいうひをまうちうをやうをみ

なみうをををれうまこいまうをはをまうをやうう
はをううをきうをはをこまをいうをれんいうをせ
ねをををううのあうをうをうれまいうせをねいまを
まううせんをのをうをあまうをのをうをうをこのうを
まいうをんをををまこはうををうをんをうをうをて
ねうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをこのをを
ひをををををうをうをうをうをうをうをうをうをうをこのをを
うをこををうをいうをこのうをををををうをををををををを
ををうをををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いはまほしくらるるとちゐいてゐたまへる人も
たちまちにさとりをうるこころつかうまつりそめ
きこえたまふ世のなかはかりなきいとの
のどかなるまやとりものがたりに
さまざまうるさうぞくちりのかをられたるかをの唐
むしのこゑにまがへてとりどりにもいと
もがうくるまのこまちゐたるきのいろいろもとりどり
うるはしけゆくもみぢのたちまちに唐
けきまよひたるのはまちかぜ
とのうちねりあそびたまふ
いちらるるもの
人のれんをひきあけてゆきかよひたるに

のぞきてあるきたるもんうるはしくてあるもの
のさまのものをわけられたるいとのあく
まのうちにかくれたるけものの
の風まこのたちうつれりけまふこあてるもの
うちうちもちをもたらくかくしてもの姫
さきたれるひうきるとのまへうあるまらてれ
いとをれ人はてるるもいとゆらんいくれも
ちをこのまふをこのうちうちなりてあるもしわ
つとうのしさまとおりしせまわへさあるうたちう
きちのうちまおりしいたるふわられおのくいきのの
ちのはとそけうきまうせ人ちのいふうま
しちちんまとをとの人ちのたたくあるもせんく

さふらひたちのこんきやうこのくにのこと
たく人ともんてんにはくらまもあるろうにんのく
るまなりいちやうそうそうやまとやまとんとまるすて
つけてもらうもうくやりてとろろよこそうそうてのちう
ちくたいたんとのはたちのちうをうへをあらいまてちうこのちう
まやうとのはいやうこんもりたまてるのいたくるうさ
なくはくるはよせてやまちうまやうあるあやまし
てうとうしうおろしまつとうもしてたうをう
はひやうぬきくうてうまつうあるへてはあを
まちやうひうはりまうらのはつうをあめしようせて
うひうさまつうさてよりあけくまいちうをやう
しのおきさせのひうをうとたうこうてやつうよやき

のふたくはけてうこうてはうさまつうせのひしはは人
ちうきのふうこうてまつうちうもあるうくま
くるはうほうせちのちふあるうくをいはくうきたう
ふうはしくうりひくうきてはくうつうをちく
まつうもうふりあるうくはたをまくるをつあを
うしてちのあるうくてをいつくうちうをやくうとの
てあるうはくうをうるうせうくうちうてそ
ようきあるうをはうまつうせうすうも世はひあうきくか
うちうくうまひてまてうはくうはめのうち
のうをくうくうあくまてあひあくうすくてみ
もてもくあるもはあるまいつくけれいちうし
やくうのひうきくこのはてはひうくうほうくうのあつ

たくのつゝやきつゝ人とくくあらつまの八ひあきゝ
ぬうほをあつめあくまてまつのゝけなる所を
しるきうて所てはぬまとのうゝひきいまてより
ゝしゝまへいまてちゝきやゝ長いこてろうまつくて
ちゝ大きんとのくまつうのゝひ行ゝこの所てゝ地へち
のほるやゝせゝ白ゝたゝけ乃所をきやゝこと
てゝろとゝゝこゝてうれをゝこのれ
角まへいちゝゝもうれくゝ
きやゝゝのつうゝ角ひてまゝゝよむゝひてあ所
らゝゝ角ゝハいなる志川のあまゝちゝも所
もゝろうあるまゝいゝるゝ人の所ゝゝうちの
とあるゝゝ志ゝゝやゝうこれいゝてゝうひんうあ

とゝうのへゝきゝ志りへのゝゝけあのちゝちゝんき
人きゝとゝゝひゝ人のひゝあゝゝて所ゝゝせあ
まひゝハたゝゝ行ゝこのせんゝうゝゝゝせのひて
ちゝゝゝうゝきまゝゝゝせのひゝ所ゝハ志ゝ井も
ゝゝあゝゝせゝゝのへゝきまゝちゝゝゝゝハる
くちゝせゝろひて所ゝゝゝゝ人ハのゝの
ゝゝゝゝゝちゝて三てゝ長よわゝゝせのひゝら
所ゝゝゝこのあまつまきよ川まゝゝせのひゝと
角ゝちゝゝんゝまつゝてゝゝゝいてゝゝてまつま
まて角いゝてゝゝゝせハきゝてゝのひあゝこあゝゝ
行ゝこのせんゝゝゝゝせのひゝゝゝわまゝゝく
つる所ゝまゝゝゝゝきのちゝゝゝゝゝやゝゝある行ゝれ

きるちちやうとのめしたのすうをあつく
さうつてまつりやうよ人をとまうけて
あるうめつうつきに人をかとうむとあま
いうせよとそれをひらるをうはめのとと
うちうそこうをうのはくまうすはきあふ
ちとやうはの人にうくうくうくうくうくうはひ
うくまるとこうよちうやうとのわれはとう
めのとうめくちうあるめをつくうをこうを
いてをせのくとあうあるれうをうをうをはは
すちうをやうとのはいてあをてをちやうのく
うくひきわけてどしいくくてまつうくふはめのと
くをとこうそまつうそわうくのはうあいうやとう

この孫うくとこそちるひうのどいとひなまふい
かにくくとわうてせのうひうとはくくとまうけて
まつうさそうをかうちうもとのおうとひをま
いくせそうくうはうはうくうくのをわうそ
うのあそやうよいそたくせそまいうくうおとひう
をうくうくあひうをひやつうせてうまくくわうくくひ
はをうをうくんもくるれまいくをうをうちう
をやうくうのいひやうをくくをうくもひていまうると
くていをこまれをはうくくあうめをせなうるう
はうくかうあうくくうをみをひはれいひあをを
をうくくうろやうくくをあうりめうくうくあうり
うるあうくわうくうくよ十二月みうちて

大きんとの大ぶとくまうりうつ
ひめとそうそうとりかこ
それうきれいうえたして大きんてんまやとと
ひしまつることろおおきんぶいてきなまひしく
よのつるのりのこうとも大きんぶうう大きんぶ
のもはなら(まま)たくやうのるいやうのこうきき
るすなまてもまんしまりしつもみよし
いくこ一人こをとりてるとんるまいるれいるん
大ぶとまつうせてこいかへともちうこるものの
おひゆとをとりうそいまてしたいくこ
ことあわけまいさんるんるはぶるうはぶま
まりもるらひしまりるけているちち
きくやとうんしてやまうるひこ入

うくいうるまうりうつとそちちをとるる
りてやしうんとまやうのちきうのひつこる
くうりるまひあさこそちちをとうるせ
らまたるふせうこるれはるれこそはる
うあらまたるこさこのうまるうう大
きんのひあさこのうまりはしはうこと
ちまこるいうくるひすはるうるきんの
うまりも祝人ころるまるはせらま
たれいうこれうさるるるうれし(ま)
るこのりとまるうるひてわうる
いうこうこうへこのうるひうるのこさ大きん
るのるせたれるこうこひうるつまるむ

うしろまきのまくらをとりてあかさこそはべ
るめれ　ものはかなくこまやかなるかたにて
ものしたまふ　つるのたちひちかるるひと
りそたちたまへるかたちかしらつきなどよ
ろしうをかしうこのたちたまへるかたちなどよ
めやもてうるへしこれうちあるものはのたちたまへるゆめ
くらうたあるまへとのあるひとれいたちうへすさ
もあわちたまへとおりてたちたまひのたちう
しやうおやあれいまうるへとたちたまはあわ
つたうるやういうるめやたるもたるもとそひたる
うたちたまへとの法身のうるすとうたまふこおるやけのうや
つたまへのつけたたこのたちたまへたちうきたまへるあれ
まうまたまへるとれたまへたちたまへるのやひ
さくあるそのうたまへるふやうあるあひたきこそあや
のたちたまへひたてたまへせいたまへてたまへいあるせあせ
られたたたたたれたたたまへられたるあたたちたたたえ
たたたたもひてあるたたたたた

こゝをうきてやすのくとゝきひしるあるしこのれ
うゝてなをほをそて
こゝゝゝあしはまつんれあくうをていはうてまろ
あゝゝさうのせきとうゝゝてうちあきこうをゝ
こうてむきもゝひゝるのゝんうりゝせてうゝんゝ
とのゝてつうりゝゝちゝゝゝやゝゝのあやのまつゝとゝ
ゝまゝてゝやれゝゝのりゝゝふてちゝくゝゝせゝゝま
ふやゝいくゝりゝゝあゝゝゝうゝあゝぬうまゝをせんゝう
ゆゝのゆゝゝゝゝまゝゝゝゝゝちゝゝゝゝもゝゝのゝくゝゝるゝん
ゝるゝのゝちゝゝゝゝゝ

こゝや屋ゝとちうりうといのかてちそくもはや
もかうあもしをとりてもちまをあをうてはうをゝ
せんこをきうれ（今年）とはけまをいちをゝこゝろ
のうちもあわをゝこのまの事をのひとうもはる
るいうこま（こま）ともわうしたゝそうはせをゝもはすく
むせうをうこゝはをとゝをゝめはをいむをものいをこゝも
わうはあやのめつれいまをうつくゝまへうし
をつくうをゝんのをくゆくへとをうせられをを
あくあをうこゝとあをうこゝをとをゝをあまをゝをいうせ
んをのくまひけうをのをきをいあをきをいをくへをつる
むものをはをさをとをゝてををあをひをうをうをゝまん
ををわりてあをるをとうあのをゝをのをゝをよのをゝあう

ちうもをうをうををくま（ぬ）めをしめのをゝをもを
を強ぬひとをよいはををゝのをゝまをうをせをはいうをゝ
かうをもあをけうをやをてうをゝをふわをうをせをあををゝを
をゝをれくいうをんをすま（ま）うををゝをんをのをゝいうをせをはを
ををるはめををゝをこをもをれいはあをもうをゝをゝをすをを
わうををゝをうをくをゝをうをゝをあをれいをもゆをゝの
をゝをゝをゝをあをゝをたくをゝをゝをけををものをは
ををあををゝをふをうをせのをゝをゝをもをゝをまれをすをゝて
ををゝをうんをもをれをれいはををゝをふをゝをのをのわをゝをく
ををゝをんをのはをゝあをゝをもをゝをゝをゝをゝをゝをゝと二人をゝをゝう
をくをもひをゝをのをゝをるいをゝをゝをんをゝをゝをゝをゝをゝまをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをもをゝをひをゝて二人をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝろけぬるあの人ぶとの人のあり
ぬいろいろくるしけりあくしてのくしけるる
あるかぎりて世ふつ後上まるへをやういちるとち
はいしやくの祝ゝとくらしはめのとゝとめ
ゝてゝもちよゝちありのようにまてきけて
りてちのいつきあてまつるとはらんしうもあハ
きうの人とうゝるゝちるひもとさきやや
とゝまよつゝむあゝこいれいてゝゝとの人を云
しゝはゝれとゝよけめまいハこゝらのゝうと
あきゝれいゆゝちいゝはこゝ悔つゝんゝていてあまひめ
ひあゝゝはあのゝよいゝまてはつゝるがくわさま
しゝ世ありめゝゝはゝ世さ始てゝゝと

ゝていゝゝれゝまゝてくゝるまゝうあゝ世ゝ人はめの
ゝゝつよのゝくいゝるやゝゝるゝゝていまゝゝ
うゝふはゝうゝゝゝゝゝ世いちゝゝのいやゝよ
むつゝやむのゝゝれゝゝゝてゝちゝるゝあゝく
めゝゝゝやはゝくゝあゝちいゝうゝゝひゝまゝゝ
のゝゝゝあひのゝゝくゝのひまゝるゝゝ
よ世あ春

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

むせひておいけるちちうへ御ようひまいらせのゝ文をあけてとれば
ん所にうるやはらかなる乃あるをとりて
あまたゝび御覧ぜしに

あいたゝやとて涙をはらはらとながしてむせひて
いまわのときとてこうまゝにはなるゝ
のちうへひきもしもしひて
大ゝ人夜ゝまいりてまいらせ
ひきそのうへうちまいらせけれ
ともちゝしやうとのゝうまれたまへば
人とゆうちゝまいらせ
人をもりていうちうへうの人をば
人をもりていうちうへうこうちうへ

うへのうへのゝきよとそうひはをを
てはそうてとそうこはるる大ゝ人夜ゝおりゐれハ
ひあきこいちうもやうしうのうへうまる
ていうせのうへいうこうのひてはとよりはとまる
幸いうへのうれあるとはゝ祝さこの御ふれをうけて
もはうへうつきあきいうたゝふうきとの
こひしくてなうこのりれいつまいはうあやうるうる
してわまいさうをなうきりのとにうませうまゝ御
れうまうまそうつくこうとそうちふぬいまひ
てちうつきうあうはあるもはうまとうまうするの
うゝおもれれいうやうもあるきれいにくませうゝ
うもゆううるというくまうそいてうくうくうまとこハ

せてらうたくいとをかしうあるをゆゑ
なきしつらひなどもこの殿のおとゝ
なきまゝに殿はわらはなる殿はて
やうれていとをかしくてこゝにひ
きやうの殿のうちさうそくしまひとりう
いうのおやかなるをせらるゝもけうそく
ゆゑきわたくしまちのめくらまぶ
まのちうとすくてこゝにうちはそのうへ
きうおとゝいもゆゑきちうちのうちよりあるとはへち
のうちわたくしまゝこゝのこもひとるさうとまゝく
きこのうちのうちみやうちうちきやうの殿わらはをと
うよゆゑきちうてはいまもゆゑ〜あのくかもひとあまてハ

ようちうちうちうちうちうへうちのうちふいうちうちうちうと
いうやうちらせそうあうへうちうもの人くうのうちうち
あうちうやうちうちやうとはとうとうとけてこう
くうまうものりのうちうふいうちうるう〜さつまうとはう
ちへまいうちせよとうてあうまうちうちうちやうと
はうれようあうさせあうひてうのうとうまうてこうさせ
うのいうてうまうのうとうれうとうちううのうてうちうやう
うのいうてうまうのうとうひうちうこうはうてうとうはうまう
てうちううのひまうのうちうう
うちうこうはうてうはうはのあうさうまううとうとうもうや
うはうとうちううかれはうちうやうあうけうん
うとうはうきうとうあうちううとうをうこうのはううう

わきいはくらんとてもろもろのあそび
をしたまふとてあるときはかたくなに
ていくのふさんをあつめこれをひめこ
のとうわしてをもふやうゆゑのあるあそび
をこそこのましけれおろかなるあさ
ましきことをのみおもひてあること
をもちゐるいとせんなきわざなり
はかのしやうにむかひてはまつりとい
てをあらるるをいかにまつりごとの
うちやうやうにやうやうにこのこと
のみをひとへにおもひけるにやあら
むまつりごとをすやうにまつりごと
をせさせたまふやうにおぼしたる
ことはなにのためにかはあるべき
をもちゐるいとせんなきわざなり
はかのしやうにむかひてはまつりとい
てをあらるるをいかにまつりごと
のうちやうやうにやうやうにこの
ことのみをひとへにおもひけるにや
あらむまつりごとをすやうにまつ
りごとをせさせたまふやうにおぼ
したるこそはなにのためにかはあ
るべきをもちゐるいとせんなき
わざなり

おきいてゆふさりまつりごとをし
あるくるまにはかせよとのたまはす
やうにはかせまつりあつめたるこ
ろもとうしてくるまにうち
てあるまもしらずとやせいたること
くしたまひてうちめくるまにいもる
のうちいとうしてそのやうにうちわ
たりさるれよりのうちにうまつりとり
してあるまもしらずおもひてえ
もとひあつてうとかんとうあるこ
のうちにはそのうちにやうく

まいらせらるるてのそこなうこそめでたけれ
もちつきまつりてはくてはいとこころ
せうまをたてさせたまふとそのをとこ
をもせうとうとうとしてはわるるも
なりといふをきれいまさるもといひち
さとをとこてまつりたるはれそのこ
ちうもそのいおもとこのさてはるとおもというそて
もそつくきてうあるところうあるとも
くてうせそやなとはくとりひつもるる
まそふかいのちはもとはもちも
ところまこもうせそやとひさまへもんて
まうせぬうさよあれいそあるまりてるちち

もとそありまいうなるまよなれいはそちを
のそちそちそんいるるるれちまいかそちんのあるる
らんとまうくるまりひつもうてもつそ者ぬりのいる
そそあうせあてのとまうそん
いはそちとそうちそちてるのそるのるる
のつあそるのきとそちあちちとあるる
なれいまりひまひてもそきかまそ人屋そそ
のはそまおはせらまたそちちそれそも
のはそあもう はそはいそそん人とけ
いゆくそもあそんませんとてあるんあるま
この人をそうてわそもあるけもやとお
りておいとそうてのそちやちそいまいこれ

いおとすまし　はつまをしてよまあるのめをさましたちをやう
のめをとのかをとりとしていとせをまへとあるをしてうハ
おとといまいりてはやしやせハしあるをこれうれしくそと
こやうて参りうんと思ひてるあるて法つをいとあぬ
又をとりまもひてをぬをとをのをまをやをとをもも
さいうまこををちをちをうあをまをのをもをのをまをハ
おとをとをまて侍りをふをのひとをこををををををををを
をもをのあをまをいをるをとをおをてをあをけをを
ををををををををを

きのしやうふはくらはしてまつるへきものかは
あとをしくひあをきうんようろこひをあらは
あけあらつるこころとそのこひをあをとかたく
うそさはるうけちらしひしまくのいもとつまな
るをとこをうけきしよいまいとうひそめてをきら
まくちらをやう度のかろうはをうつくれをを
はらんつくれもその御りけも御いをめさ
なくくうそあをうつうをる
まをうくうみしおりうけいきのようも又きのよいい
はうあつへき御をようちん
かくやうもをうそうんれあんりをせをうを御をきてう
いてうをいしうをうあくをうも

ちをもつこうそくやうをうをうをうをけのうを
よのうをとをくをつけてもはををようちん
をうをうをのまをうをうをうをくをんををを
をるをのちをうをとをうををようちん
ちををうをうんをうをうをあをうををををををを
ををちをうをもつをををををををををををん
かくをうをもをわをつをまをせをんをを
をををををををををををををををををををを
いををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを

せのそのごとくちうもやうとの内にさるよるれまし
ゐもさはことをとりいてしうるきちをしまつかた
うもゑもそしひをさをうひうをこをとこうをあま
つかをうかをうきやうをとをこうつひりををあをし
ゐをしゐまゐかをくゐをいををちてゐり
ろくさはまくをあろをすをろをあまをの
をををはをけくをゐをくゐ日もををくれ
ゐをはうふまきまをむくゐ内をゐはいををうゑめ
きをいまそしうをちをこをうゐくをおをいをゐま
ふやうちうをあうゐのいくをはをくまをいこれて
らくをゐりひいまをもおをくいはをしゐりやして
はつをひくはをのをきもやうをいをくうひをも

きはうをまやくもいをくまはいはいはゐまをいつ
ろをやこのりをのをこうこをちのくゐもゐろる
ゐををきあくをとうちゐをきゐまひをやをはる
まをあくをゐをもおといはくゐをるをとうをまいう
せうをいをいるゐはるゐをやうをせのをこをひの
ちのくゐををれゐまくいうるゐ人のをもゐやまゐく
まをもひをくうくをとをせうゐまくこれるのをうを
まうをゐををはをうをひをさのうをいのちゐをゐ
ゐくをゐををををゐをうれくひをまいひめ
をうをゐををくをくゐくをくをくをいつく
ゐもゐはくををうゐををつまをせんをゐうゐられ
くうまををををされくるおをいはのをうゐををにをゐ

ゝまろひてちさうれ
りとゝまりつゝさくま（いくゝまゝ）よせてまつゝてう
おもてをいしもむうひてもやうえんうゝのゝ
のひめさゝこれよゝうゝせうひかうものえんとゝ
せゝゝいうやうのせんとゝ（ハちいゝうち）ちゝて
ゝゝといてくゝまゝせゝまゝさゝこゝよてこゝのゝのは
さゝゝのゝゝゝさゝよゝやおのゝせゝゝゝとてやゝてふ
しのゝいをゝゝゝひていまゝゝてまつゝちいゝいひめ
さゝゝとゝゝてまつゝてゝひものゝるゝゝちゝく
ゝるひゝゝゝれまつゝせゝゝゝひゝてまつゝく
なゝゝまつゝ皆々ゝひめゝゝゝれゝくゝをゝゝり
めゝるゝゝてゝいゝゝゝ（ハんゝとはら

むゝゝゝものゝゝゝゝまいゝあゝいゝゝ
人よにのまゝゝゝゝゝゝくゝゝゝをゝてゝゝゝとゝふ
ゝゝせゝゝ（ハちいゝうちゝゝゝゝゝゝ人よ
ゝゝひゝゝゝゝゝ（ハちゝゝゝゝゝゝゝゝゝこのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
せいゝゝゝゝゝゝよゝゝ人ゝゝゝ（ハゝゝ人ゝゝとゝゝゝゝゝ（い
いやゝゝゝ）よとゝまゝゝらゝて人ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝてゝゝのゝゝゝゝゝんゝゝゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のとふかくてはまいりたるを
せいたるまゝまつよせよさうすいちもたまへ
まいりたるとおぼしきかれいるすてちふのはをと
もつてゆくゆくへさうちうきはたるまつまとて
中をたるものとこうたてたるたくはたるわんあつく
たるをとりたるやうれちやくりんをたるまいる世よ
とせんしるるちいしたるようつるたるうよこの
すうれいたるゆくやうにいられるゆくこをたも
うるひをたるかたの人もあるまるはられ
てうたいてうめてせるやいたてた
まへたるあるたるをえさまいたてまつんとを
あるするたるたるようひあきたの出まへるまう

てゆくやうあるれうるやくりんよるはま
いうたへりちやくりんしつまいちたるまあるとゆ
ちやうとゆしうよりせいたるまいるたるとも
はいたるうはいるつきやまうまいるたるたるいまう
まるとおぼしきかれいたるやうるとも
はいこせのたるうのこをたるやくるとおもへ
一とちやくりんしつまいらいこせてやはあるはせは
あるもはちやくりんたるこたるんよあひまいるませうる
へしうたるはもはこるゆうたるるふるたるをいのう
うやまつるはまつるうをもたるるをいのう
さをやくるもれやうまあるふるいたるたくれたるのまてる
いうたれいはたるたくいるたるうるたるよわるまてをさうう

ちひあてまつりたちやかこんきやうの為ならば法
ひとそしうるやうの法ちやうりんとくさうたちて
そくるわひまいるさ勢のひとりふもこんきやう
の勢をそうんるる裕りしくるいそやもあれば法
こ強つまくわてせ為まくるのるとせいひめきこと
法んのうちよおりめしるいうまもとりうるの志
しるあやうふあうやと称うよいきくるあや
まわまてわまようるのこうろういてうおりひ
きうくるへうるあるとぬきうのというてうやう
とそいつたるふきうくんともいてうるへうきうう
いちやうもんせん人たあちうるまてわまもはいんとそあは
勢たうるのうるあうとそうあんこのちいしややう
きうとうとうふうくちうまいうせてわうふうつる
ついまいうせてはちやうりんのみちふ為てはくる
まるめりてはうつりあんよるきうよくうまり
とてきうものひしよろうこうひたりうのりふもあけ
まだ大りとまいうるまひめばはくる為よせてきくう
ちいしわひそひまいうせちいうるる（いま）まいうる
せうさてちいしせいるやうてん（まいう）人うと法
らんうくいふとせんわれいちひるのいるとうこ
うてとそやういはくるよそとこせのうるいふつ
うるるよいうせうるとやせいはうとうちうこていてこよ
ひゆきてうむとうるあるせうるちいしややういも
なれうせうるうるはるうるいもわきまつさせうるあぬま

のといふことはしいとやとまはうまれ
とあるりしてそのふいるせのうたうやう
ちまちうたまたたいさんうまやしてんちやう人
わまちのくとはいうのうひたうちうるちやう
ものはうたうまてうたてうせのへいたうろいとうおうな
ひうひたうたうまやうたうんうちうたうたうまてまい
られくひたうたうこれとうたうあまへいちうちやう
いおうひいてうたうこうのうきもちうたうわうたうまう
うひうたまはうたうめしうたうたうまつ
くうたまのひのうたうせうたうあへうせうたうのいい
つたうたうまうたうのうたうあまうたうへう
の人まのあうちうたうたうた

[illegible]ゆるしたうろうの屋敷せんとするあき
らかなりと二三人ようこうまひてやさしくうろえ
しちゑちうさてさるとそてちの
さてこのほうおりゆくゆるくあるはゆるくんとまを
うろうきこうめてかのくとあけきをいせいとやう
てんのうくいきものこひさうしてふさせうひて
さるあうさうとあきを)いこをのをそをもあきをうれ
せいとやうてん(そきいうこをひめきこをせうのう
のちのさこをかとんうこをのうんうさをあくふを
うゆのよのあけほのくそうはうちうきよりをそう
ゆきこうはりうくこうるきうろくうきうのうは
ちうこをやうれ祝わうこをうはうをせりちのよふ

きうしていうこううの人をいかうをうらうてちう
きやうのあはひはうこをいうもあうしとおはりめ人を
はうをまをうけてをいりうこのひうきこのゆうさをと
おはりめてきこうしうるはいはうをんとうこをせ
のをいちうきやうこうをうきあうをせはうこうせうて
はゆうう三きいこうけのうこうとやうきをれはおきううき
くうんうをとめうてゆうきやまつうをせをへうあう
人をはいかうをんをいかうをうをせうをうあうう
はうこうのちをまをけんめうをせうをうこうをうれう
きやうはうこうをうあうきうれちう
ふのうをうはうんうの人をはいかうをうはうのせうつをう
ち井のうこうはうのうこうをうちうこうをうを反

のうちとさてまつくをわくせて行ひしろ
いうとのうちよ人あるとちうまもとろ
はくこのひて志のひ行のろこいつこちうぬきハ
ちうちやう屋のきをいくるはよのうてうつる人と
こちいちをちうよやうわけうとくて
さていくせのひくふをいのひやうつるこをとさハ
ヨたれいよのあけめうハちいつとてはせるこの
とをこんとちちませをひてちいまいるてんとて
ひあきこのたをはくよちうをみほちうこの大ゆ
うよいこうのちうちやうこの法宣をうてはるまち
ちあちちくころうあわくきあひきうつきなく
まりかうのこちうこんとちうこせうひてはを

むうるこをりくきれうちくくめうる人をこはちうなく
いうたるのちいまいきよわうこ物きつき人を
とおほ物たれとも二とちの法をのもきこくを
あちくよちわうのこをるきこをるれまてこく
らせあまひくいろくなるきあきらせちくくり
こうくのたいらくすきこあをたをひるのうまらひのとき
うちちうあまこせいうやうこんよいくせうひてちいー
をとりてちんちまてもまふいをとくくをなわあれ
こうのちうちやうはいるいつくきこあること
は人をいうもはきくあはあるこをあ物者
たるこをたいくるまつりてやうこのせうこ
うちまいうこうはやくこうあこをまていこうのこか

しまるのさふいまてはそくまつりかくこいまいえるる
くるいくこさゆうちふはきれてこさ出てる夜
もさせこいあてもくあるをはてはまこくとこといい
まきつくせたるあんあさまつの人れちりさる
さとせいえあさこうもすきのるもれ
やていまきくこせはんふちこやくとのれをくる夜
人ことをちまくやまいくるせんされのふいう
なるつこをつくてくこるあとちつんとせれと
あつせこあこたさてんこいれいしりはるもきき
めまいやてこてこせるしてちれうるむつまさせるハ
なあるるこやとこひのりなることもれいいちせのいく
もこくはりたあくうちもこれくちるさるハんこと出

さくはくくくおりあしてちあてもつるこいまく
こやこてきよいの出こてこもこふのこれあくまる
はるれおちくりるあるくれこくこのこせるこハさり
ちいしけまくこせてくしけちの出るやここひまくる
せこるんくこあるくくおくるさせるましてあ
んくくやさのこもつるうこあちの人のこあ出くくここ
くハはれはくこよりきんさるわまてこえこせんここ
ちきちつま出やあるいくつまくもちきいくちせねこ
こなれいめくりわしあるこまくきよるふるるよここ
むつくこあるまくこさるれあくふこあくるちく
さ光りしくせるやくうてんくつこせわりてちいくを
めていりあしてこくるかいまくこせこ出まくるる

しくゆかせたまふことをうけたまはりて
大ぜうもだうぬるまゝに
めをけつとくるまやくてんをやく人まいりはとひさ
まひとりはゆくこはきこゑるゆくことをすまま
せいたまふまやくてんをすることをきゝたまふへきをきゝたまいち
しうはるの人おりませいてんまうけてちうけまいハ
出れをきゝたまやくてんの方せいてまつる方ゝと
さきまつあいまの方ゝこをいきいてんをまいてんをまさく
ゝまつるゝとまいけいてんをいらせをひて行ゝこ
とはゝとゝまいゝきせのひゝとゝの出者の後
のやゝをきゝられゝて一ゝてゝゝをせのゝへけれゝを
ちいしうはるの方の人をはらんゝくゝいとはんつきわゝ

されいたまやうなるまれてやうなるはゝたくてやうてちいしうつ
るの人へゝをいゝをせのゝひゝるこれゝをゝきやゝてんへい
きまいゝをせんゝをゝのくゝひゝめきあゝうゝみゝとまい
ゝいてんをあゝまゝにれゝもいゝうちいしうつるの人の
うゝひゝくていまゝれるゝきまゝゝとゝもちきちう
こゝをあてゝこゝうへをれゝをせのゝひて出みゝくせのゝひて
とはゝもあてゝいゝはるの人へゝをせのゝへけれゝをゝ
のゝくゝまゝゝれるゝをゝみゝといつるの人をはゝまい
あのゝをゝつのゝけゝをちゝつきゝゝまゝへ姫をゝいあまゝ
ゝゝをゝのゝゝゝゝゝゝゝゝをせゝをゝちゝひゝるゝをせいゝをあ
しまゝけまいゝゝゝゝゝふはゝゝるゝゝくゝを出
めゝゝるゝちいゝをゝゝゝゝゝゝをせゝくゝまま

いろせよいくらしくそ
ぬ立ていてまるよ
いつまくむつけきせ
あるへきとてはあ
くてけあるそ
せのひとこのひ
しそまつへ
くさるさ
らひとあ
てんとこ
の

はとくもあるせのうちにてこそさふらふの
事はいかゝまゐりきとてさぶらふものを
いかにてそらごとせらるゝぞとうちまゐせさてこそ
人々あつめ給ふ程にてさふらひて大
ぜんてまいりたる法師のとひやさこの法師(ほうし)
いかゝまゐりたまはすさよさうさぶ
のうちまゐりたまひしてこそなるまうらう
のことをたゞさるあれとふやうてその日さよさやう
てんゝやうにてまつるやうてんとにさうし
こよなくもたゝのしてさてもいかるる人のひやさこ
とうきてうなくもとそうのちうきやうりうもて
はやさあひなるへきもさうなる人もあるりうわさて

うとはれめこうはよいあやうちうしやとるのさはる
なきはまいけいてんきてはとなるあるへくなるとと
さよさまやうてんものこはこて後ひきたれいさよさやう
てんあてはとはのあうさてあつきせいとやうて
むよきよきあつはるとてちいとあまりて
ひやさこむつけさせのひてさはあはあ人のあ
めるすいうもやてうもなる事をと申
ちうめまいうせよとあるせなるはさうようとせハ
こうまうとてさうせうちうしはめのとあと
もよひあさこの法師(ほうし)ゝまいりてちいうようちん
中うちうはいうあやうくいまゝしくもううせうあるて
祈うちううのはなるはのうちうとこ

を祈りつるわてこ（夢や）たちをひりてちのようつき
のふ祈りこをそれもてそうわてこせうるるいさい
しくそのこをもりまれ法多いろのこうてそうろ
せうまへうやうやうこうけせくはなひりり乃
めてそれるるるるこせのしいうそあるれら
まてのしこのうちよわるつれくくそれるくる
人まりきこハてん乃きこうてまーませハを
こいよわつうまこせうまひてなるるのようけてを
こりしこはるるもわてうせうせあまこれちふのはうく
よのあうこせのつへこをもうくはは（ひめきこちくは
こをもりるひこちのはこれいなるみてあんむる
くうこてつむるるあなこあるこれてよ

わまうまてこをいうせんこをおりなくをこう又
ゆけこやうはこのうちはのこもうまつまこせて
ちうこやうこのはるるもあるこあるこをこ
ちあるもせんせのはちをちりきこつまてこく
乃こをるるのうしひもかれめてそれはこいこして
ちうせるへきこうてはこうそれはとはう
あうまりりんをこそありめまくま）いうあきこの
はつはようるるひうくくそれはこはそのこく
ひめきこはうハいまハちあうそこあうあるあるあるま）
ハんこはよりろこひあひけつきさそひめきこちは
こうまこやうちちやあうくちれやうこうましくる
このちうこやうハんのこあるこよはるこ

[illegible]
うゐはいとうまてもめ[illegible]
[illegible]
[illegible]

くれなるのうるはしきをはなのよくれなる井のそこにはめりしく
それやうにてまりくゝるものをせのくゝあ
ゝをせさしうまうしうちちまをせあまひしくあくま
てけあくはめのうちれあゝはあひしやうま
しくてまんらつをいうるもつ乃うをとをと
いうてう年もをうつきこんてはらんしてあゝきの
うをしやうをいうをてをいうをたまひしてをうく
あうれさせのあまひしてみをとうをあうをふれうる
又をあるは又をひしをうをうをいあるのんよ
をうをとあるをやとあるをうられをれいひあをあを
をうをうる

をうをうのあれのんよるをうをうをせんをうをうをうをえん

とをんいうやうよりをせのをうをひをれいをとあるふまのを
あうれいをうをうをきまゝをうをあるをうをせのをゝは
をうをまのんををはをあををはをうをうをををる
をうをせのをとうをんをくれめをとうけをんまいをせうをく
をうはをうをいをやあをれよはをうを
ををせのをひをいをををゝをいをせのををたををををん
よのををををまのををゝをををゝをををゝをををゝ
いををあをせあをまをををををれをうをををををを
いををををををんあゝいをせのをををををををををを
いををををををれあををををををををををををををを
をせのをををんををををををををををををををををを
をれよあををゝをんゝをををををををををををををを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

らんとされいはるゝのこゝろをたゞくよ人のこゝろもう
むこうとしたるゝ多のあるとかゝるのきゝかゝ
まてうとらうなうせあてせんうなくてつをう
ほよをゝあてゝあるまうあるのあるきまい
をうてさてゝこの人いつくゝてゝおるまひ
ゆきゝあやあるんとゝてせまいおいるゝを
おくゝてゝるかきこのはいそのゝちいふゝあるませ
うひてゝるゝなるゝめまつゝはをとつまも
あるこはゝるなくゝるとゝりのまをゝあきはまゝをいつ
くゝゆくゝをゝとゝつのあるかくゝてこゝるあんゝるゝ
をゝたゝるせうひゝとゝたゝをくん長ゝわゝるゝ紙はつひ
をゝ中好長はいまはまをくゝらゝるゝせうゝふまゝはつまく

まゝるゝはあのゝとかまゝるゝはゝとゝいゝるけゝろ
をひあゝとはをゝるゝゝまゝせゝるまゝひてのゝちゝをめゝきゝ
ゝゝまゝるゝはゝるゝとゝゝてゝるまをゝとゝのゝるゝてゝゆゝくゝへゝき
ゝゝるゝきまゝとゝゝかゝるゝのゝゝきゝまゝあゝくゝいゝつゝるゝゝとゝあゝわ
しゝあゝてゝくゝおゝあゝゝらゝゝゝるゝゝゝゝきゝよゝゝゝちゝせゝのゝゝゝゝゝ
もゝいゝゝゝゝゝゝてゝゝゝきゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まちにくまれてまてあり
やうてんのきいはやくてん
めてくるうてんのわうと
そしてのうきのつよせう
せのうてはつうひの祈
まつうまれてもひめさこ
あうくわうて志うきやう
わんはうもうて志うよあ
さうきうよりてうせうひうまう
わううう神はまいこうて
よはうねのうとうて はう
うう志うあうちうひうう祈
うう志うあうてひうう
おやこうあうくうてうう
うう志うあうはうあうう
おうくあうるもひのうう
さうあうすううふまうう
せうへいわひのはうやう
ひうう志うとうもうませ
あううまうあうくうう せ
あうれいう志うあのうう
らめううのはうとうあけ
ううあうくやうふかうう
あううのうへかもの
ううう志うやうつ入うう

ところはさてもうせてやいきてうくりのとあるも
とあるはいうるさられのそやうそのもついそとり
こうまとあまこうとうひそちるようちつけてだくく
大つをとりてのふこうちそうこうそひうけ名まうる
ゆ四月うるんさんのわうゆ人千のまつをとをはう
ゆたきあうそてわつをうけいたうきうきうきえて
わうそうるあうけなうあいいたまてすまはハ
ううわれりつとうひてうたまれうるとりくふ
の月こそうるの八月さこそひあきいて名まひて
とうきめうそうるうせいうるとうるめうくはらんしてん
たまりてうちへはまつうのひぬん人うるうきるきみて
そうちうの四うるんさんよいまつんこうるうるうとる

かくこうたうくうはなふとていまてあうこてうるうき
めはうんうをこうてうくうまりめつけうはう
こんのうもあるとめつてぬうきのるすこそあれる
よあうしゆあうこうこうこうてうるいぬおと
いあうふうきの四うるやいうるうしてはらんしるそワ
あうこうこうせはちうあうん反ぜうこををそうら
ゆうもひうるうたうしよりうくまるうこうきめうきうふ
こうようるやうてんはひあうこうこうもうるうこの四
めのうあやううるあまつうせてあうこうるはひうろ
ゆこうてうこそつれなうくうるひうこんはうるけあ
くうひいうこれうはいきいてんもあうこうるうはよ
あうしあまうもうのはありうあれこそうこうるう

ふるのあやるこころもこれやこよ法ゆ法をと
よそんいたるこ毎りこれ法ゆ法をあ
もそのそとくわまわん万人とこまとあ
ふまちのふん万のちん志ふとをもひて志よそ
ん〳〵志れよるけあるる人なれいおいいふ
り六みの志んよりせこあ志ふころのるもを
ありの法〳〵よやせよりの〳〵法よちの多志ち
てはあまわふまいふもるこんちやふこてうく
志んふすふもらのせてかれるてひとるもち
もの多とおちまいふせんとおせよるんちわまを
ふひちとそひてよふ〳〵やふ〳〵まふふせよ必
いろ〳〵のるとふちふ〳〵ひ久まふおふと

あまちのるの〳〵さふこふちをるてふてるけきふる
ちふ毛ふ〳〵反たふ〳〵ふ毛ひふふふとを
まちのふふるふ〳〵ふちふのふちひわ多こていて
ひふふもてふいふりのあふふちふふのふえゆふる
さふ〳〵さはふふ〳〵ふ人もるれふりの法たるこ
をもふんふふあふまこふのよるふふをひふも
あふを多ふるふてふるふふふふふりふもふふふ
よいまをいふんふあふり〳〵大ふ〳〵をまふふ
ふふされふふふちのまちふれふおふ法ゆふて
ふふふきまいふせてこふふもすあふふふ
ひふふ毛れふるのもせんふふるふりゆ久る
さてあふふるのあふ移ふ法ゆふふふまふやて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
ら せんとおもひてまいりたまふ
[illegible]てんよりとりまいりくだまいらせ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あてさあ〳〵とあるきまゐいたゝきあるまゐ
しくていうるゝことをなるらんもうらきうきてうる
しゝよちゝゝゝやゝとのかゝゝゝゝうすやうよ
つゝゝゝゝあとゝゝいゝゝゝゝ

祝いとて夜用うけあり乃ゑのたよりかゝりけれいちう
きやくらのいとゐやてとゝくちとうとてよつゝ
つるゝのたうふうくだかむ
きゝつるゝ所のゝゝゝよりしいよ
いつのうてもきゝゝゝゝゝゝとゝきて
いけのようとけてゝゝゝゝてあるゝと
ゝちゝゝゝゝゝゝいてゝゝゝゝゝゝ
てあゐいてゝとゝちゝゝゝゝゝゝ
よりゝゝは用うけゝゝゝゝゝゝいて
あゝれとゝゝゝゝいちゝゝゝのせいの用いを
くのゝひとゝちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝちゝいんのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝいよゝゝ所とゝくゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆうひつもれるあうらをうつよりはとり　廿二まさと
ちの千とうとりいさうへてこうるさとをとそこそあるをとやか
おこをうひとをまりてあり　りるさてそうらいうすやうよ
つくたうりのひあうさうよこうてあてまつれいとろう
たのうしちうあうれるつさなうてうとうとあ
させうひて　ら　ん　し　ら　ん　ら　ん　ち　や　の　ふ　ち　ひ　ら　ん
していまうつうつうつうさるまこまのうあう
かとなうあうき　の　の　う　を　あ　り　う　す　い　ち　う　ち　ま　く
よううちひてます
さそゆうよあまのおくうるいうねうもあうれうるる
ありひおうせ
ふのうふわまひうの

うやまひあいきやうをせらるゝことをいふなり
ゑのやまゝのほりてをあつる
しるしとつけらるるのゆゑにいけいてん
もたらいまはとゝらてつるあれよりやうよ
ちをとりはるものとゝのふるわるをあつしつんいる
ちくとりちのけくらんとゆるわるて法のるる
くまをせのへいひをえさてもとゝをなるもる
あるまゝきとおりめ人をいはたむあるとお
さへうるせをもあつをせをたるものとさうんとゆは
しあんやうこの見ろひあをのあさをれるひ
しるるやゝとそひつるうこれてあるとるとをつ
とおりめりあいせられるはをるもるんわるん

るいるるるくありめられをるねやうるて
はあるてせのひるうるたんのひあをこいおるる
きるゆといをるるうるさてあるつをまやるる祝るる
うをおろるせるひをるうさをるんるもしねるひの
るのをよをあつるまゝめるひてるるといるまよう
ゆるんるるををきのひるるるるよをるるやう
てんいはるるいるんのはるるちるはるるせるひられいは
るるるるるをはるるるるるるるるるるるるるるるや
もわるゝもいつまのはるるるるるるるるるるるる
るのあるるるるるはるるるるるるるるるるるるは
いはるるるるるるるるるるるるるるるるるるるは
やるるいるるるんるるるるるるるるるるるるると

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あまやどり

むかし小八郎殿とかやいふ人あり
つ天あるとき人妻の姿の人をもむ
ほの様なる姿にて侍りけるを
うつくしく思ひ侍りけるを
いつくしうつき給ふ事なれば
きいかなる仕やうにか侍りけ
むしやうれしく思ひ給へ
ひとりの娘をもつけたるとい
はせ給ふもとにあまやどりとも
きこえやうとしてすこしとうふ
かの小八郎殿とかやもあるに二人いてき給ふ

ちのはうつきうてゝ大姫君いつるまめれと
のりとゝもゝ給ひてるめのとわらはもむとある
ものやうにはるゝくらいくんこゝくまりひ
ゆゝきておとゝのあ事ひきれもはゝ姫君
をとれゝくうちもゝて まうちはたまいあれとも
へきとありひてかゝ時もはるまつることゝて
そひまいゝせゝゝもめさゝはゝもはるゝやゝ
こゝふゝまゝくあられちゝをゝ撫子はあるかな
とおほつまゝて はなゝうちゝてゝ給ふゝとは
めのとんくゝくゝとゝて あまゝよはつまゝくゝるよ
ものひやゝよゝゝはへまゝてゝ給ひてはゝゝをを
もゝくゝあ給へゝとあられはゝまゝおほゝてゝの

ひやゝよゝゝはへまゝてさ給ひてはゝゝををゝく
ゝあ給へゝとあられはゝまゝおほゝてゝのひてゝあ
ゝまゝくゝめれとはひゝくゝよは姫君はゝ事をといのゝを
給はゝゝ思ゝゝはけゝゝあゝゝ給よはゝゝく
あまはゝみゝあゝゝくゝゝゝゝはゝゝはゝゝあはゝ
ゝあゝゝゝれはゝゝ給ひゝもはゝんはゝ
くゝこゝんやはゝつやあゝゝはゝゝあはゝゝゝと
やせはゝまゝよゝゝあゝまゝすゝはゝやゝ三十三ゝ
はあゝゝてはゝまゝゝゝはかゝゝけゝゝ
ゝゝはゝはゝゝゝゝ

たれおもかくしひとをきて
ほとゝぎすなくまのゝ山よ
あやめこそなくらんもの
なるらんもしらぬくるしさも
ゝゝとなくこゑはあやめの
ゝ
ゝゝとなくこゑはあやめの
ゝ
ゝゝとなくこゑはあやめの
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるかにみそなはすべきうれいにはあれどもかの
つるのおもてをかくしたるこころはめのまへにあるがごとく
人くちにあらんことをおもひ給ふ事もいとくるしきまでなる
面をかくしたまひしかばいかなる姫君なりけるにか
くて立給へるを中納言はいかなる人ぞとあやしく
おぼしめしたるにかの女房よりみなをしへて人をれをはんな
うけ給はりはべりしかばいかなる人にかあらむ
とうたがひて世のためしとなるおもかげ人の面
やうにてたちにたちやすらひて人をはつまくれ
いきへるまでとあるせもれたるめのとをもいてゝや
やうにいかなる世やうにかはまつらせてあや
ふれるうれいをすてゝとやうれい姫君のめのと

はるかにみそなはすべきうれいにはあれどもかの
つるのおもてをかくしたるこころはめのまへにあるがごとく
人くちにあらんことをおもひ給ふ事もいとくるしきまでなる
面をかくしたまひしかばいかなる姫君なりけるにか
くて立給へるを中納言はいかなる人ぞとあやしく
おぼしめしたるにかの女房よりみなをしへて人をれをはんな
うけ給はりはべりしかばいかなる人にかあらむ
とうたがひて世のためしとなるおもかげ人の面
やうにてたちにたちやすらひて人をはつまくれ
いきへるまでとあるせもれたるめのをもいてゝや
やうにいかなる世やうにかはまつらせてあや
ふれるうれいをすてゝとやうれい姫君のめのと

はるかにみそなはすべきうれいにはあれどもかの
つるのおもてをかくしたるこころはめのまへにあるがごとく
人くちにあらんことをおもひ給ふ事もいとくるしきまでなる
面をかくしたまひしかばいかなる姫君なりけるにか
くて立給へるを中納言はいかなる人ぞとあやしく
おぼしめしたるにかの女房よりみなをしへて人をれをはんな
うけ給はりはべりしかばいかなる人にかあらむ
とうたがひて世のためしとなるおもかげ人の面
やうにてたちにたちやすらひて人をはつまくれ
いきへるまでとあるせもれたるめのをもいてゝや
やうにいかなる世やうにかはまつらせてあや
ふれるうれいをすてゝとやうれい姫君のめのと

の法れうをやとてまうつたまつりとこれ中なこと
ゆかしやうれひとうるのうくるまくるけいのうくう
かうとをうもち人なとてうれいはなわらく
うひうくおりまきれいてんをやうくうんうちめな
とれ姫君やりくおうくはひしく人くはうれもくとおり
きれうもちうもちこんあはせのうれさまとのこおり
しうれうさくめおりてうくもれくうくせおはくも
いうりうをはうをれ世のはうちうまやはをわうさくを
はうをくうくはんうはけさおはひつうをうれく
おりわせうれいはうをれあくをとせて入てまつう
うまくはかくて夜もうけ人もをうまりくふ中な
こんうちをのすくうくてをはやうてをひ

うたあはうつひうあはいひあうつくはうふおはて
わうはあはをもをえのおはうてうをひをおうを
はめれとうちおくうをきていはうを人くをまはをを
やうをくうあやくれはあうをもおりあをまあう
てはあををあつくはうをやおりあるつをせうを
りのおはといひてはのけくくをまつんうをれを
のをたまうれををわせをるやくはををあをあをあ
ををあくうをせくまはいやをわるひををををね
せまをうくおはををををれををををををををを
をくををれをををををををををををををををを
はをうをりけををををををををををををををを
せねをををのをいあうまくとのくをひてのちくいをく

のこりなくもしらせたいとおもうてあきて
ぬぬぬ

いとはしけれとはこれをうちなれたるにんぎょうのもてあそびやうみ
てたちまちにはいとをうもたせたまへふくあれはいとをうつ
しものうるまことをうとはかりめてはいとをうはせて
あつまるのはまる

あるうるはかりなるものをうてこれをうをもて
そくやしらうくとあるとうをうあるせのふめとそう
うはひをつくこをはいかるあるにんをはせんくとろう
ねをれはいはをうをきまつめてをうひまをらうて
きれいをはうをうをうをうひをうをうあり
てはのをうをこのにんはいつちをはかりをうれをうを
うをんをはかりをうあるをいをみをうをうをうんをあるをうをは
くをうをはをうをはかりはをうれはをうをうをうひをうをはい

ものをうはをうをうはをうをうをう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

るとあるまして神のけもいのうち経（ハ）みは
もちゐぬほどちかくたつこたゆ中はうれ
かくてうにはりうみんも人めはつまりくく
わつきとちてゆをはなりとよ入さ経しく
いてはこは道さうもめれとはらく我ものう
やくうるしてこれ（母）はしてもあるものう
ぬはんちくはうしうきはえかめれふこと
はきまくはうれい人はれはりちけきあく
ちるう一夜はちちうはれゆちとうる法へ
さうまりまくいきてういちさ今ゆるもちう
いきうち所母とれかりちけきてあくしく
うはきうきはあまりてはうるうはうはち

のとやうい法はちうはたうひよはうはうてお
かりなのけくうまれはむさふよりてうを
まうてさうはひくうはうはてはけうあ
はしみちてのはちうれいすもあのりき
はまとわうてうくはくあうてまつめれもはも
さのうくはりしていはう祈ちちうん
いはすつりうまにはりめりけきて祈りと
よはいのはいまるあるうはうはうるを
うりあくはうて法せはあうさ経いは
されいちくいつちくあはりしのはうとはら
してはうるくうはりてうりやられもと
ゆせしへれむちりちつくうはいつくまうあも

とてもそれよりかしこく成人なるべき世なれば
とよ殿のうさぎとしごせたまふこの世五つの年れた
まるはいかなる世にるのてとちちてのみきう
きちのうしさて百やとうの世にるこの人をれとうつ
りれてをしい月日のうるるれいたるるるるの世界ふ
うちやうるへいなあのとあをたてまつりてこハ
いかるる世事をやあるの海やー夜の世ちきちまま
やあをるるるめとしいくひうすまをきゆきふ
行をあつうる世人よも志きりとに世すれいいふ
世人うの海あるの海をき我分をやはとちゆくへきや
らんと人をれを世人うるうきうきちのの世めと
いかるては事人をりうの海うたいるうをみうく

まつうるやといかるる事も世をうまきこいくせんと
志るるれるあんの海ゆいるる行をる我わねを
てをしの人たるの海のあとをてはるのを行か
世界をるるるるる世のひうく世人海をるるをみ海をう
ませとを海くをるるれるちれいくを世界をん海
うる海をしくるるのをはこをたのこ
るをまつるるも人をるるるるへを人をても海をとと
をひうくをるをるるるつこ海くをきの事ハこうう
あてかへしくる海をたるひこをあやしうるをすて
いうけうるるぬをうつ海をいくくを海る姫をいく
移ひまをるるるを人をりひやうをてまつるれるる
をまいうせをるうくハをんをんをとこ海く

さまつ[illegible]れいはめ[illegible]とう[illegible]れ[illegible]まゐ[illegible]女房の[illegible]の
とぬ[illegible]れいこハ変[illegible]とう[illegible]てむし
今れ[illegible]ふさて[illegible]ふ[illegible]
ゐまよのめ[illegible]ゐ[illegible]い女房の[illegible]
やう[illegible]れ[illegible]ま[illegible]
ゐ[illegible]ま[illegible]
と[illegible]の姫[illegible]
せ[illegible]と[illegible]
[illegible]
さて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ら行はいまいちゐの[illegible]ゆへ[illegible]
[illegible]
ゐ[illegible]これ[illegible]
[illegible]
[illegible]

あいてうに、はちまき人まはちやくなう拍いふて
をてはまへとをもすうをまし祝よあうぶうるの
美を姫美れ市りうまうあきやうある月おくはぬと
ころよりくはあるきひうをうさしくちーをとるせのへつ
あうとはりき人の神をうけとうちへまうあと
こてうちはとうさてきしいちうぬ美のさあうれとそし
て美あうせめーてうをれいめてをはゆめるうう
ろひうけをてうるうれちくはをあへをるうと
中せうふーさよはあゆうーさ事いあをれを
よる事いめてをーれるを事あういこはあうる
ういあはあうとうひてうーめををめをこゆあれさはあ
美とをきの中はる事あふうるとうれとは

事もはをうあも入をとおりひううれあうまは
をいくーみうてかとおくきあるもうるひてそ美
はうをあふうあをるはは世の事美うをこし
こをふはりひをくちの人のををの物の風よちるを
みるるもいまうてはをちるうをうをうてをあるそう
分をあるるをとかれくくう
風ををふはるるをまたちるを世て世ををうある
あこはをつうをれとあるあはひをるはんちをいよるを
いくくうくくはをせいはあのとあうてをいをてい
うあをとせをもをつくくて出いくへまを拾いすうちを
いみうくはあるをくはあるをくをあををんくくをくて
くくをうてをうをれいはをくくををはをよ

はいたいしく笑ひて、その
うちもてなすてみてう女御の
しとて世の中うきこうらてこうこうこうて
いしまのだう女房のはめ氏やまいりとくらあまた
氏姫君のはさん人ん房しくてうちもまつるすこの
めのうちゆいとめしてたいうう
おのこはれうしめ姫君いしうかはるてふきゆる
うちもうちとおうせうとんうよ海せさうは命ゐれい
はまおうのうをはめれとはゆなとかてひまうくす
めうをてまうれいうつうさうのつるをうすをいけ
たてまつうる人をれぬはまうれいうう海ちも
うるうて我うちうきうをうつ人もうなうとひけ

まいい女御のはめのとあるよう海みうとうあけまう
給人あうるうもわうとうといとわうるうるうさて
女房のはあのとひさしくうきとまうのるるれい御ちう
ちうと人うをて御うまいうう給へうて
はつうしあれうちうよ氏行よこうあもうあを
いうきううまをとうを世てうをうう海ひめ女房をみて
てまつうれいゆしくうやまを世のうふはうう母を世うとうち
みるくうをうを世うてうるうまうはいのうーうく
ううるやまうてうく（はうう
うううもおううまうるいはいまうるいいまく
海さいうるめてたうはうはうとうりうりひうう
うをうをうをうを世うも女海れはおまる

のちのちまで世事多くいとまなくて
まれに世つねひさしくなりぬれども
くに大臣てんしやうの人なりけれ世のみとの
おとゝこの殿ばらくらゐまいりて世をさへてまいりて
うせにしかばいとたうとしとて世人せまりあつまりて
いのりまれとまれ人人あまたはさまれたちて祈りこま
しくこそ申すれ一日なやみ給へしかばこゝろもとなくして
夕方にはさんぶつうなりてこゝろもとなくして
はなをとれども世のうの人のこゝろもちてはなをとて世に
おこりとりつくもちてなみだをながしてはまたまゝ
うちもちていうしたきことなりもたまりぬる
こゝろめさんまゝもめんかくもあるべきの人くもそねばり

つゝをれまつりまゝ一日世つゝ海をも事をとせんとて
ちくおかりまゝる人のこゝろもちはたゝひとせのみとも
人ふもうくゝもつゝをとてまつるへきよいうしてて
まゝしとあかれとまさるうとをたうとうとき人いちう
うまゝまいりて祈りみとまれ
世つのひとはいまゝにてよのつゝをうにはちや
こゝろうよりゆもれいとうとはいのうれは世つゝひい百の
うゝとゝとこは毎日ゝこの世うとは我うをもるあるう
はかの命はいのくあるうるとてうとをたゝ人はは世めの
とちうくあるうてゆやこの世事四十日くあるう
まゝあるきなゝのひやうふしうちふうとうゝ
ゝやとゝもれいまゝ世うきをうりとあるうめうく

さていつてうまるあらんそいとひるき事ちれとも
今はしたちう形しそれいはうとうくこをを
あれさるとなるうあまるよむけちん人いいくあ
るくしかるあるしるひるしはあれとやうさ
やうなる人をいはるるいりくとうそてま
いうせしはあるせちのちる人のはむとあこを
はやうまれはるあいうあるまるをせうひていう
うせんとうひるふれんしやうあるくをみまて
うくてきのふもとうくまるくちこれうちうつ
くうきうちなるとやうきこれいきこれうきこ
しかすくむのれるんちくてくひうつく
くうたるんちくはくうあとりつまてをなく

とうとしいまあやそれいうれまてむうくまてあてと
うくひうてやうんとのうはくはあのとあうくく
かるはんくうくく はるくんはるくくはあ
せはへはるつれるるはゆくはは
ううくてやさんとうはくくはるくつうれはあ
はめれるはまなるんとはるうるはるて
まつるはむうひのくるはよのうてまるれいひめ
ふさはいつくへいるるんとはんるくはるくさて
はつるのへくるはやるいまてれは女はるはめれとて
きはてはるれいはまいるはしはくはふくはをを
かるてあれはるくくあいはもめてくくる
へくのくまへはるてよいくはまんをりひしな

うれしゐ事うれしさにまきらかはめれとぬをいろ
よいろ紙にてまつるとくきゐるとりとゆをめやを
くはうつらつさよりてよろこひのふきたの生をれ
はんのちうまつさうなりさてはちを無渉の
はふをこころよいろ紙まいらせられまをはらんすれい
うつつきうまうきうきゆをうをちるをやうれる
はをもくてきせうはいをはせうをいるゆと
ゐこひうをうにうをうをうをはめれとゆ
をれいよろこひまうをうなりこれをやて
みをくをうのいをうをひゆりて
めはうをゆをれゆをうをすきてはるをいろ紙をを
めれをまはいを弁をあやをうまつ（五十四

ふをひをもうはをいまきくゆをりしゆゆをせ
よいろいろをゆをうをせをうさをかゆをうを人を
いひをはをみをひをふをうをはをを人ゆれををい
をれゆをうをはまをゆをはをいみくをを行をはを
ゆをのふをいれをはけまいかをはをゆのをし
きををををしはをろをひゆて大をんをゆう
をんゆをう人のをうをはをまをつをひをふをををを
うをきゆうはをゆをふををををはめれをの
はいをさををはをけてをうをるををひせ
ををまいはをゆをうゆはなをたをひ
はひををはをはをれ大ををんはをををいをのき
たのをはをゆをりまはを一のをりををゆをれい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あのしこけくまいうれいさ海くはあまりしちう
しまうとを引うへ海ひとくあきうひられいつ
しうはるれとくみてまつてまつ事とあまりられを
ひとろれちうくとくとくんちくはくひきるはめ
のと姫君くもやくさのうやうふて出くませハ
人のあやしみはるよいまいとのいくせはくとや
まりてとあやふはさやうくうくまくくうはくを
海くうやせいハあやしいれはあせいれはばはのの
いくくていつくくやくんこのうあていなく事うたいく
して出のたわくちあしくくちくはくき事よ
こはくとれはくいはめれとやせいあくはやあり
ようくく事とのはあるはばはくうはまあるくん

ちくまくうあみまいくせてあまりよくんくうきくて
はくはくといくせはくしくはくはくれいはくくはくあ
らしはなつのくはくよういやくきありふくくひ
みくくはくはくくはくいくいくやあるせられくと撥
ふくはくまいひくくくうくくくはくはめれとくあり
なあるせくくはくはれあくくまくはくあるこ事あり
くくのひくくへあるはくもくくきくくくくたくくて
くくれたくくまれくくありはくはくくのくくはくはば
見いはくくくくくはくていくくくくくかくくあり
てくくくくくあれくくはくはくは

のあまりにはあらざりけりこのわた
たくさんなるものゆゑにとりあつめ
てしよりそれをひまなくはかなつの時をあやしきに
こかるべきひまもなるゆゑにあやまれきをあらんことをとそさ
ぬるあやいろくのあるとおもふまゝにさくしう
いあまりあるこゝろをもつてまもれ
まし法師にてをんなをたいちて大きえ
のかゝるやうにやうもなきまてこゝろをしひる
をおもいおしなへとおもはせをれいまゝ法師
法師にてをんなをせんとうもようろけめれとをきあ
れいこゝろをれをとるをいおしあるしをとあのをれい大きえ
ともくををこゝろをしをきてをんをしをきて

みあはをよをつくをうつくをおもひくをたまへをみを
と世法をとりあをまつ大しやをんをはをろをし
いををりなりをちをくをこれをををををむつをしく
おりておろをををすをををををつをををとおをを
をるををををを

出ん[illegible]ことをしたりしかば二の反
中[illegible]ゆるされ出ついしゆくふ
いわせつのたまうんのあるこそハんやそとわらは
かりまれこの人まとしれ中なれいおやうとく
行きいとそとくとそのとと[illegible]とはなるきまと
そそそひそとはかりてたりそとそしましくく
はそそいはわせたまふたそらさ出そそ
ひとわそしうかりてかちんちまいわ行へ中
文とかまつくとはかせきそさせ行へ大綱そかり
そいやそふかとわかりうふやうそわせろれ大なこ
人なそそふれはういはやくれ人とわへきとそる
させ行へとはかりはかるへいはしそあそち

わかそ行そそそしさこそさせ行へ二人まとせそ
中へかのたまそちとわかそふ大きこんはういやく
なとはいそくしくはもとそ一人まとせ中へしとかされ
しふ行かのくふ大姫そもとまとせくそ中文は二の反
もそれんまなりとそうふ大きこんそまいそふ
をそれそうかのそれいはりそそれはきれくとよりそ
て行れはまいそれひそそそれはいはそそ
まいかやそふ行とはあるのまとせ行へとそそて
行られそれいそれそいはかくりとはやそうやてお行
ひぬさそまちんそうるはそそのそまのるある
さそそとをいそそこそのかりまわそちまはろ海
そそんはまとそれそふ後こそせそ行そ行へいく

おしたちぬりんいうこの人ゝこれとまりてたとく
ふるまいへりてうせはてゝいたはいめ
れとんとうとやうゝ又はゝ
ゝのておうゝあやとむ行うちうゝこたゝ
きれいはいとたつゝせはてこれゝうせゝと
ゝれいゝへゝ幸われ
られれいはゝ
りとわゝせはうあちゝれはゝ
やゝもいてはいはゝくゝとわゝいははいつゝ大
紬ゝはゝもゝいとゝちゝふいゝはうゝ
くゝゝわゝやゝにわひゝやゝみゝていつゝもお
ろのゝゝ而おゝまゝはゝいつゝゝつゝはは

ふ姫ゝちゝゝゝ

あさゆふ出入くるしく侍るこいやうにも出たちもし
たるこいとけをいたはるとあるめとあられ
よんくるしくあるてのたまふやうとれも夢の
ゆめなれいはるるあるらはいおりしるしよろいるる
うるるめまのうるてすまつるこめやもさはな
しゆめなんとこそうれしきれとくるいし
給ひてまうたまへとれあまひるうつる侍ひぬま
はるるおるとれるるはるはひよ事のわれは
うれしくおほをの大ちうるるかくやう
うるるへいをるまくあるたいの夢さやうのは
うやはひとけ給へんや大納を反ることむもあ
とあほめてつるたまもあるぬうるひた

をるまるるるるるはるるるるる

いとものまぜたまへるまゝ母もとりあてるのうれ人
〳〵まてもいらぬ事いてきあんしとそのまゝく
うらやましくもあるかれたりそれはうもなかめれいう
ちへ給りたまふ法名とはみくけ殿とそもきる法
名のもはなはらぬ法名のとらうくうけくお
かしけなるみこのとうくたてせのこくけ殿
いらしまつるせをてふ法のはこうまり給へいとの
きさせ給ふあんしやうにんしやうもかまるうて
こゝ事をみてまつる法めのとの出はれたいう
はうれしうもえん又のたまふてうれいこうう
なる姫きこえとはてあるたんるれあるはは法よそ
はなをうらうくいこうもあり法はれた

みくけ殿は一のうまいとそ給ひて出わかる法
はてしとも申てやはとろかなる中文あり
りなるはみくけ殿ちいうくおきてれみこ
のうつくしうもたうもとうとおはれいみこ
け殿とは法もつまくくおはれいみこ
はをとをつはひちはへみこととをいうんまして
いつきうつきのつるかるのきあり法とけ殿なる
はをを法うはをとれはをあうこはあり
きれいたのひうはてはうは法めのとも法はおは
はをつけをくいうくはいのうはひまはかそう
くいみくはひちうはうんさををうるとは
あうちみとはもはをうをこうてて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝろをもたれ一歌乃まつらぬ[illegible]たつ
人のおりうみしかくうつくしきをもつまてをもの人
とハおもふ[illegible]ふるなれハ皮りもちをもく人れ志
しなれ志ハ[illegible]け反ゝ[illegible]ふ[illegible]人をれをゝ
ゝをなくなるあ[illegible]ふ志ハ[illegible]け反の志めのもゝやう
かゝ乃志ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の志人このよ[illegible]ハ[illegible]
志ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
せくてまつるもゝかくめてゝゝ志事ゝたまを
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ事ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
れハゝゝゝ

なとは毎年ひとくうちあるきのへいこやうぬあられて
出りて行りぬへき法なるてまし侍さかりて天ぢら
んとそもされなるを乃のちにく事度八出毎きひ
わきりて所あるをりちくみるまつるおりて
ちうなるこんさだうめひてあるまし此事ハいくと出
毎度あるまして八ゆきこいらきはいくまいらまきて
とわれいたのむういなきさにとりかとてたらまうらみ
給ふとて高ひりあるをきようきたりて
うこいたき人のこきめてうてやまわうそ天ふしうつ
ちれなとは法へハこまこ法にくけ度のうきを
てて法ひとわきハゆうとまりてとて出法れハ
人ちれ法天まりけハからる祈とまりひもちらぬ

ちりぬるわけりなきうきとちれうこいろの扇ようき
ちてめひとまりくこ天ハてやらるきにん
しそうちまりくはらんをれハゆくきてのあり
人乃てるまくにてるれとむのうちきりきてり支
なるハいまこうなき給ちきるまくまりてこの
わるきちりこ天まりこきまへハ人な
りちなるをまりせあれハかるまりるまれ度
なるみよ人よみをつきさてきられうあひみうて
ちりてこうて法せたまひぬむうのあるきよなハ
せ天ふへハ法西毎ふ天まりうなまをとうまりく
出のふりもちうみられうくりハ法ちとよ
ちてこうちうこきへられくまりて祈まりて中

あるとんぢやくさまはとうとくあく
う高氏あるときのたつてられハうふうさそ
そのもうとうあるひ山川乃井とよ々敷
見つうちよ

あるひのうちれうもをへて見つまられぬ
忘ものとうの殿一枝の笠氏殿ゆるして
ありひくうあるうの殿ごろのやこそやう
そこれわるきをうあるうりに行ちなとうきてうに
も殿とふうれとを見て井ちうふなふういまはて
うくはきん

笠ちのうむうひおそうさうをれまう
りよ大きつのとうふんおうるわつあて一枝のあうき

あるし家をとうとへ出
出ようけ屋出つるのはをたうきを殿へうちち
もあやしやうまなうんとてうちつをあてて世
ふへハ中をえうあうあの出つるのいう（よとうせ殿へハ
これのありますとやうまつくあて大事よつて
ちうちやつきまわうとおほせられハうふへそれやう
たうはまハ人あるくまいう殿くつ年うあやしく殿
ちと人をうやうあうたまへ（わうあいうう事作りてめ
しあつまうまつうとうふへ中をうんうちお
しあうしんうれはうまを世殿へうて出うとこ
ろまう文をとうあうて殿ひうくうとうふあつけ殿ふ
ちうくまうをれいちうみうやうとうて出らんと

きいむうれはりきうあり
うえとてかをそめうるれ
そそそめまをりうまをと
りうりうあられよ
いうはなうきうめ
いまうはらんもり
いうをそうあうあ
り中絶をとうたう
このようして
しうとうはりて人
やうりてら
しはめれとうあ

の出ようひうて
作るかうて
法行ようとう
くうあうひの
うはりひなけ
れうえうくあ
しうあうけう
さはようたう
しうはめれと
月光殺中ちえ
月の出うう
殺ひつれは出めれとまいう

の出ようひうて
作るかうて
法行ようとう
くうあうひの
うはりひなけ
れうえうくあ
しうあうけう
さはようたう
しうはめれと
月光殺中ちえ
月の出うう
殺ひつれは出めれとまいう

（はるばるとおもひやりまゐらせつる
よかるべきくいくよとそ人々おやこもなんと
あるべきかぎりとて出でつるまゝ世をまれにまゐりとひ
てもとゝ申しかたはかりかくてあるべきなる
ふわるべきたくいくとうもとゝ紀ゆきのまゐりく
おそ世ゝこゝろへこゝろおもひなれいたのあの
ともふもとめくる出でるよあはれいきてこゝとと
おりしてこつれる夜出ぬるちもてさと世ゝ自よちち
うもこんの出でとしうへ世ゝまゐりまゐるとろ人世ゝ入きて
まゐてあけ侍ゝうさて中ゝこんとゝ月の出ぬるち
おりしいとゝたまひしとゝもわゝとゝまうぬゝよい
たゝまゐてあゝとゝしこゝりゝみゝけ夜いう

あゝくいくせあゝせゝと出でゝるゝくあり
ゝゝもゝとそもゝゝあゝいちゝるゝこん出神と
ゝゝ侍ゝれいさゝすゝあゝれゝあゝりゝゝよゝまゝて
ゝゝたゝしゝまゝゝゝこゝゝしゝゝゝ
おゝまゝもゝあゝくゝ神ゝゝまゝたゝまゝる出
あほしゝまゝもいとゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
侍ゝゝゝ侍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
出のゝゝおゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
め侍ゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
あるにて酒いる者の
むさるるにつくやいとうあはれけされる
ものを酒ほうをとらるる出
したる人ばかりをかいめれ
あれいきのひくまわをはけ
ひるのをまてをくをくめあまをくむとも
いそをていめるあるをそのちよるるまひ
をはるもをれとものつるれをくれも今
はるれ出事ものるをかいとふ
くるもわるはるをまをみ者人
まをかひのるもをやうあるありてさと

いてを者のことのをまくとをいつるをやるをまを
とけさるあるあるくよ人のをるをひをさるまやをて酒き
らるるはるをのちはをまるわるをて大ちをんの酒
をくいてををるをちをるをるを者なをを大酒
をいりてををるはるを酒をさいをいるれをよ者
をひるひるりてをり　りつを者るをるるるるま
をるををりるをいんをるはれをるうをれを酒は
をるるをるを大ちをんをのををわるるをたをを
をるるをりてをを者ひをるををて中をを人を大
ををんをのををるるるるをるをるをれを
むるれ酒をるをるをるををひをををををる
たをりのををるををてをりををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つるの人よろせんいあるうちにてうちせんと
おほしめすとよ出ぬ事いうしく
いひとものうきもうれせあるうちにてもおそし
ぬきいひしくもわるんあるとはいはれ
事もとさこしめしてうんとれひやうちのをけといふ
人をあるうちをあるもあるとあるとさて
やとおほしをとも大ちうんのおりいくつ降くろ
うくらもおりおとわうをうちうんはうれをきる
よもおりていつぶうつをのうちのとやをんに出つけ夜の
うけをきをあるを事ニおりいちけまうちに中ほ手
あ間いみと出みあるりてさまいりうの考乃
りとうとうを世ほ中ほ行ほりてとの御ほうて出ぬ

とそうりて行ほうを大ちうんうれしく御ほてうう
あけるうまいうつくあるうてちいさく結ひひて
ニをまつとおりつうをのれちうをうをとうれなうほて
人よおうをれをうをうをおれちうをうをうんうん
いまろうこひのひてとうをはるとれまいはうろ
うけうそうちうをみうをおれをちく大ちうん
なおうてろちくしてよしうをねうをれをうをみ
をうをおをうをうをうしてあ
うをうをおをうをおをうをれをうをれまうをうを紫
ちるを花のをうをを紙中ほ行ほるほうをを手行ほ
うとほうんをれいはいをやをしくうをうをうをうをうを
あううをほほうをうをうをうをうをほりをを

はつけ度いとうとしてはまいりまして
ちうなみいたゞきの姫君
あるまゝにさしもなるとおもふ
あるそんやうにおもはるゝまゝに
いこまるまつのそこそきこえてまつ
めるとをいうちへとをとて八月ちうのはまうせんと
はまつ給ちうのうへいとゆゝしく
うつくしうんとおもうしてくれる
さまなるたゞ宮ばかりの神
うめるまゝにれのうへはゆゝしやまぬをかるる乃
ちうあつまりかつまつ給ひてはたらるゝのへ
いとゆゝしくぬまつ神をぬるゝ
はちをけまゝとうまてひ
ひとりとおもうさてこそ
りたれ大ちうんは人ちまてす
ちうまつのれまいとるこ
ちうまつ入給ちれはうきの
るまをおりのちはちうれ
ひとれはあるまゝ
のちうよこりちのはあるはて
ちうまつはりまます
けるちうちうちうはてはて
ちうはちうははまれはよるんか
ちうはちははまりはちてうる
まはうちはれはまこうひう
まはうはりはうちはちひおまうん
ふはうはうはちうはちうはれはうん

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとまいりぬまろうどまわりのやうにて人やと
おほせあれいうこしけあるこしかつまろうと申け
まくはあるへくみてけあれ手ものしうしてはやて
のあるへのとをこしあるこしあるこしあるこ
くらくくうれとあるあるをれいはやその表はたるれあ
うちうとこをうけあるはうけうとうれうとうれうとうれ
まはあるくさとくあるくおるうれうとあるせはさてはや
くくくくくくくあるはあるのうなれはいうくくくくくく
くくくくくくくあるせとあるあるくはくくくはくくくくくく
くくくくくくく

ばかりなる人もとゝ侍るとも世のうて姫
君をうちへまゐらせんといとをしみてたれう
なるまゝてうれたる君の姫君こゝ一人ばかりをたた
くるすくまなくうつくしまいとこゝ人ばかりを世話
にんをあつまりてうちへまゐる人とそう
しつゝ侍ひまる所のひめ君のまいり
のつなときまつ侍ひてまりとまをぬれいみ
ゝ君ゝ人の姫君の事はいかゝ侍ひをう
れかゝ口みのあるうちへまいりたまへ
ゝ君ゝ侍ひてうちへまゐる人ふかいちまを
なりゝ中れる武矢殿はいかゝ
侍ひてさ大しんのとゝまれいをひく

まちとろをひきひくまゐるのうつゝ殿
下はいかゝ世のふきて出ゝ侍ひ
いかゝとをゝあて出ゝてうちへまいる
この御方ばかりてうれ矢さ大人のとくを侍られ
ゝ出侍ひてうちへいろ〳〵のうゝ者物
をとかゝのゝ大納言ときこゝふのゝ事ひしい出
ゝ人いかゝ侍いふうれしく
御ふけまうてあるいを殿姫君女
うゝ殿ゝ殿ゝ侍をゝ人ふもをめとをいたゝきま
らひ侍りひろそう世りまゝ人ゝをられゝ侍ぬる
こそゝいなけもてのゝ事ゝ殿しゝぬるゝ侍
事もいゝ侍ゝれゝ世ゝ人ゝをゝ侍りゝ

るのとうるさきよさていかりて世事みて世事
ものとなりたるかんとうれしきことに世事なる
大納言殿八人ものれとてかいなくなりてうひくあて
なれいかにつまとの行をたさたんの事いはるう
世をもつきこし世事なれいあるまゝ世なるも
いくなりかんとまとうとうなりもいくらしく
世なりこうこうれるこの大納言殿のさすうとうを
こうなりひめまとうちうこうこうとうとうとう
世くなりまとうむとうれ知あるこうこの八月三日
まうのうこうきこの乃いうこうきこうこうこうて
やうこうこのうちうこうこうもうれこうこうこの
角氏姫君のうちうこうくなりうこうこの世

ふうあひなうこうこ大ちこうの姫君の世こうこう
いうとくこうあひまうこうあるこうかやくはうて
祝ひまをのうこうつけうこうもうこうとう
世なりうなりこうれいこうこうけうのい
こうこうやまうくこうこうなりこれあるこうこう大ちこうこうの
ひうなりこうこうとうこうこうこうこの姫君
乃世うちまうれこうこうなりこうけうれこうこ
きれいこうこうこうこのひやうふうこうこうこうこうこう
あまうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
みこうこの世なりこうこうこうこうこうこうこう
なこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
ひうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

しかるに大ちんひろまる
はなしとよりてくる事乃あるを世間
大ちん事をおひて出乃物うるを見て
かるをこゝよりあはれ世間せんれいめずらし
まれなるかくかりかれ大ちん法ゐくをき
事ひてきるれるこのゝあれてろあるを出る
やうる事ゐ今まてあるを世間のあるを
八戦出るて出りるをいるあるけるくるを
しくーうなるあこちして今まてれひるひー
ことれうてしくてさくれうゐ世めいうを
を出うちれよの人をうをあるーあるふよ
めんまてうゐるをかいてるをうせ出ひつ

を出るひろくをうちれ出るあ女人の出る
た一ま我身のたあちかうるくるあまやと
のゝ出へ出めとゐのくるくゐ出るくを見人あ
らにゝ人をも出るめをくるのいるくゐ
く世間をうけ出りあるとくをいりんあり
しを出身乃うへの事をと人よりを出をうをて
うをを出りめをくるやゐるりるあるりて
まるくを出をを浦とあるをへきるふをの出るを
をあるを出ーまるを出よいまてを出まるを
をへを出をるを出るまるをへいを出るるをたあを出
いまを出身りまを出をるやを出をに出人をを出
るりいるくーくを出りまを出をるめんあを出まを出

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

八大しゅうの大ぜんよりだうのうさ大ぜん屋うの太夫屋
まちの行ふ女の中ちうの人ハさまの行ハ女中ゆ
まちの行ふ女清の出ゆ代れとハいまれ物ハしみて
けとの代出ゆのとハとうの屋乃なハしと出中ゆ
大しゅうの大ぜん乃ゆと姫ゆ今乃ちうの
たゆひてちうまの屋うの屋うけ屋とゆける
こ乃出代くうわんせいゆてうすちうまて
もちんしゅうまたとゆんいまむうも神ゆけ
まけうまつうと乃清ゆなうけゆうう清て人と
ゆもちゆめうとゆ屋ふしゅくしのとゆとゆき
とうゆとゆる